街なかに佇む　鎮守の森

秋田市
ヒエハチマンジンジャ

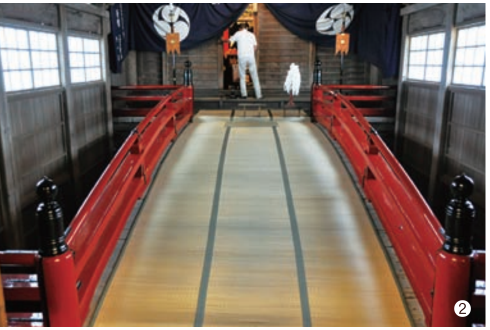
日吉八幡神社

通称「やばせの山王さん」として親しまれている秋田市八橋の日吉八幡神社（秋田県指定有形文化財）。6月21日、日吉八幡神社七夕祭の準備でお忙しい中、宮司の斎藤至郎さんに境内を案内していただきました。ラグビー場や陸上競技場などスポーツ施設が立ち並ぶ地区にひっそりと佇む日吉八幡神社。秋田市出身の編集長・渋谷も実は今回が初めての訪問、社地が予想以上に広いのに驚きました。神社のお祭りの時に捨て猫を拾い「フェスタ」と名付けて飼い続けている、という心やさしい斎藤宮司さんのお話です。

うちは久保田外町の総鎮守です。古くから「八橋の山王さん」と呼ばれ、この界隈の町民たちに親しまれてきました。始まりはかなり古く、平安時代に今の秋田市外旭川笹岡に創建されまして、その後上新城の五十丁、飯島、寺内油田と遷座を繰り返し、現在地に落ち着いたとされています。明治の初めに神社境内を囲む一帯は「八橋公園」となり市民の憩いの場として賑わい、江戸期以降の俳人の句碑や先人の顕彰碑、記念碑などが数多く建立されるようになりました。こちらは聖農・石川理紀之助の顕彰碑ですね。大山咋神と誉田別尊を祀っていまして、土崎港の町民が久保田城下に移転して外町をつくったという経緯もあり、境内には土崎大隅守、伊藤淡路守も鎮守しています。

こちらは拝殿、安永7年（1778年）に建立されました。こちらの絵馬は江戸時代のこの辺りの祭り風景が描かれています。柱は全部丸柱なんですよ。この神社は神教と仏教の神仏習合の意味合いがものすごく大きく残っているんですね。神社には普通このような丸柱はあまりないのです。そしてここが内陣です。それからこれもとても珍しいと言われていますが、浮橋です。浮橋は寛政9年（1797年）に作られていて、当時は屋根はかかってなかったようです。浮橋の朱塗りは、修復するのに全部塗りを剥がしてから黒い漆を塗って次に朱を塗ってと、とても手間がかかるのですが、10年ほど前に塗り替えていただきました。そして本殿です。奥殿は普通は入って見ることはできないのですが、今日は特別に取材ということでどうぞお入りください。極彩色の宮殿が美しいですよ。宮殿は文政4年（1821年）に建立されていて、国学者本居宣長の像を秘蔵しているんですよ。この他にも境内にはいろいろな云われのある建立物があるので、そちらもご案内しましょうね。

①



②

③

④

①拝殿の柱は神仏習合の意味合いのある丸柱 ②浮橋は寛政9年に作られた。現在は屋根がかかって外からは見えない ③極彩色の宮殿は見事で当時の繁栄ぶりを感じる ④本居宣長の像が鎮座している